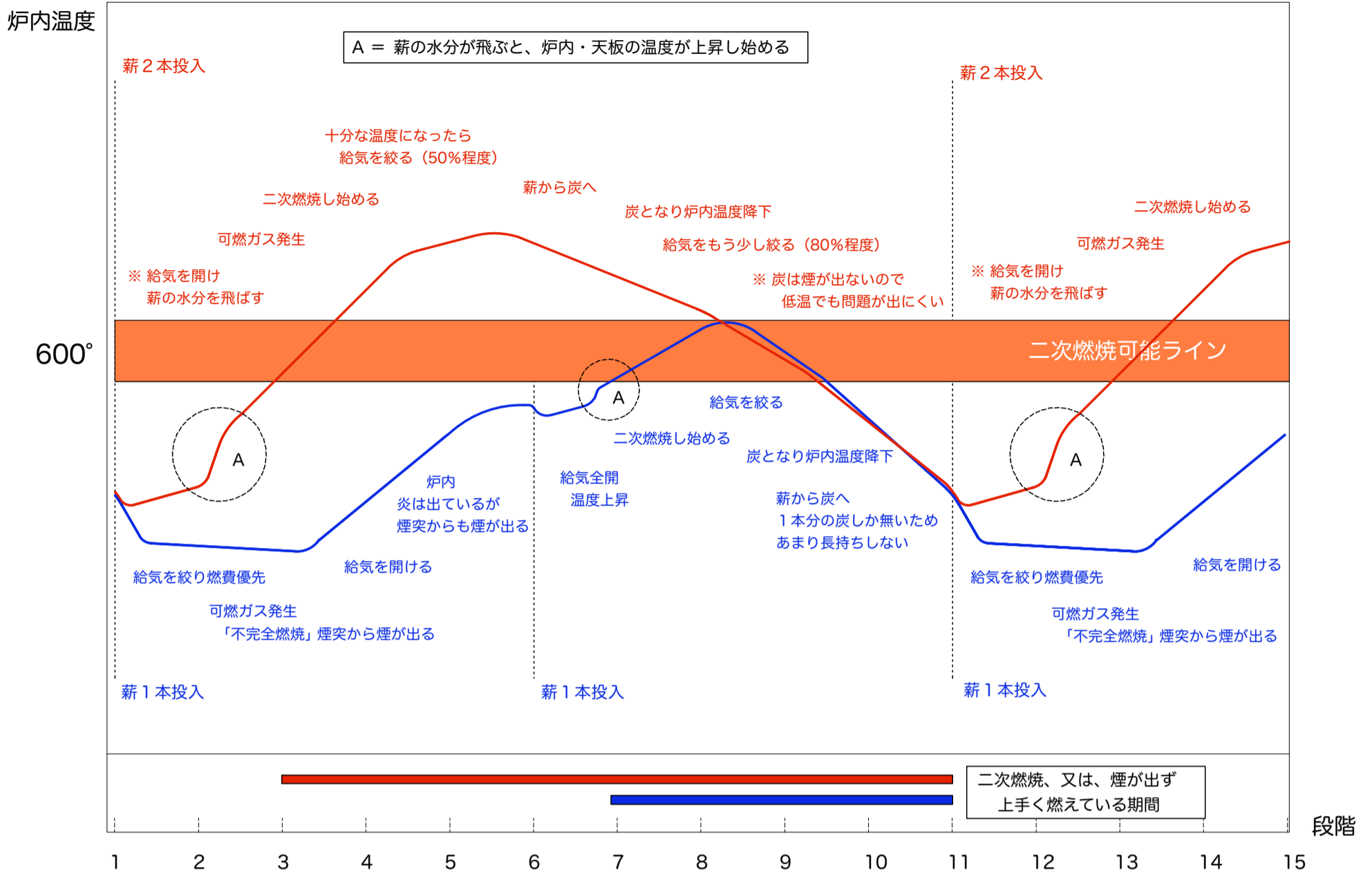




薪の燃焼過程と炉内の温度変化（巡航運転時）

— 赤線 — 良い例
— 青線 — 悪い例



良い例（赤ライン）

過程

- 薪2本以上投入
(2本以上入れることによって十分な熱源を確保する事が出来る)
- 給気を開け薪の水分を飛ばす
(天板の温度が急に上がりだしたら水分が抜けてきた目安にしてください)
- 給気を少し絞る
(着火時用の給気を開けている方は閉める、又は絞る)
- きれいに燃えてきたら煙突から煙が出ていないか確認する
- 十分な温度（天板の温度計）になったら給気を絞る（50%程度）
- もう一度煙突を確認し、給気を調節する
(煙・臭いが出ていれば給気を開け、出ていなければ現状維持もしくは、もう少し絞る)
- 煙突から煙が出ていなくても、炉内温度が下がってしまうと二次燃焼しなくなるので絞り過ぎないように
- 薪→炭へ 炭になると炎も出ないが煙も出ない
黄色い炎が立たなくなったら給気を絞り（80%程度）、煙突を確認する
(煙・臭いが出てなければ絞ったままで良い)
- 針葉樹・広葉樹でここからの時間が大きく変わるので気をつける
- 次に入れる薪の量に合わせて、熾きの量・温度を見極める
- 1に戻る

悪い例（青ライン）

過程

- 薪1本投入
(燃費優先で多くの薪を入れない)
- 給気を絞り燃費優先
- 可燃ガスが発生するが、炉内温度と給気が足りず煙突から煙がでる
(薪を熱して抽出した可燃ガスを煙突から排出してしまう)
- 上手く燃えないので給気を開けるが、直ぐには改善しない
- 炉内の炎は出ているものの煙突の煙は出続ける
- 再度薪1本投入
- 上手く燃えていないので給気を全開にする
- 二次燃焼し煙突からの煙も無くなったので給気を直ぐに絞る
- 薪 → 炭へ
- 1本分の炭しか残らないので長持ちしない
- 1に戻る
(さっきは上手く燃えていたので給気を絞る)

自分がどのような焚き方をしているか想像してみよう！
 重要なのは、①から⑤の間で炉内の温度を十分に上げること！
 燃費を良くするには、⑧から⑪の間で給気を絞り調整する！！

